

神島

神島はユニークな形をした島で、鳥羽港の北東 14 キロメートルのところにあり、美しい風景で有名です。島を歩いて回るには 3 時間ほどかかります。その中には、深い森、海岸線沿いに続く絵のような神島の町の路地があります。その道をたどると、白いタイル張りの灯台や監的哨跡などが見えます。監的哨跡は第 2 次世界大戦前に建てられた、砲弾のテストを監視するために使われた海軍施設の遺構です。

二ツの浜では、巨大な石灰岩によってできたカルスト地形が南へと続きます。岩の白さが、島の緑、海の青と素晴らしいコントラストを作りだしています。9 月から 10 月にかけてこの島を訪れる 2 つの種類の生き物の珍しい光景を、観光客は垣間見ることもできるかもしれません。それは、サシバとアサギマダラです。

三島由紀夫(1925-1970)は、20 世紀の最も重要な日本の小説家の一人ですが、この島を舞台に 1954 年に小説『潮騒』を書きました。これは、若い漁師と海女と呼ばれる女性ダイバーのロマンスです。この本から何本もの映画が作られ、神島がロマンティックな場所だというイメージが定着しました。